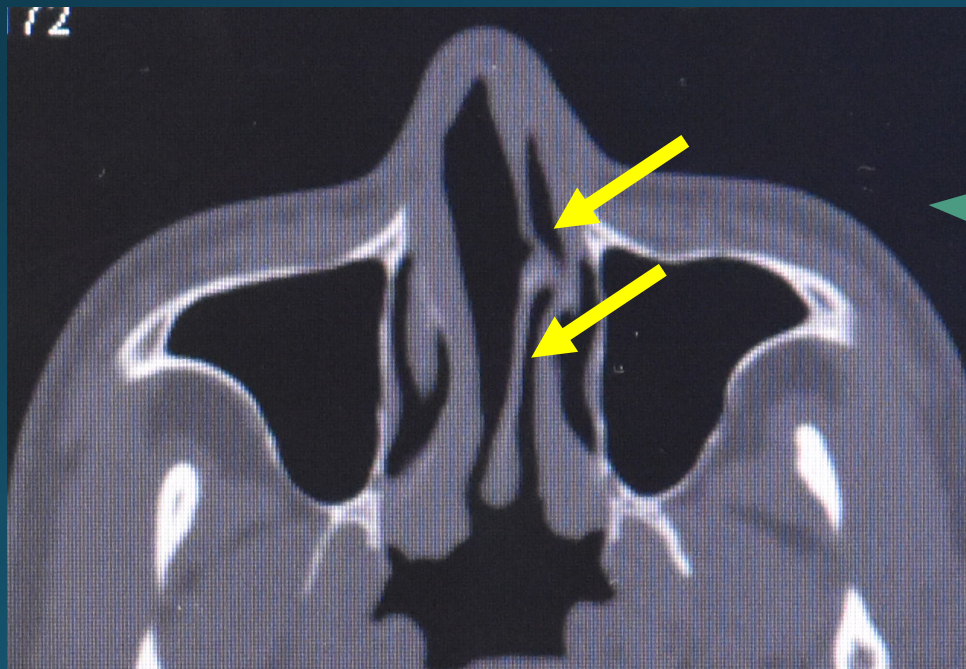


外鼻変形の治療

東京大学医学部附属病院 形成外科・美容外科

外鼻変形の治療

もともと鼻が曲がっていた、
あるいは怪我によって曲がってしまった（陳旧性鼻骨骨折）..
そのような訴えをもつ方の中には、
整容面だけでなく機能面でも日常生活に不便を感じている方が
多くいらっしゃいます。



斜鼻と鼻閉を訴え
来院された方のCT写真

鼻の通り道が
狭くなっています

そのような方に対して、
形成外科では耳鼻科の先生方と協力して治療にあたります。
具体的には、鼻骨骨切りや軟骨形成については形成外科で、
鼻中隔や甲介への操作を耳鼻科で担当し、
整容（見た目）と機能（鼻の通り）両方の改善をはかります。



(Upper Lateral Cartilage, Lower Lateral Cartilage, および鼻中隔軟骨)

鼻の形を規定するもの

上1/3については
鼻骨が規定します。

下2/3については
軟骨が規定します。

2科によるアプローチ

※治療内容は症例によって異なります

形成外科による**整容**の改善

症状：鼻の曲がり

評価：診察、CT検査

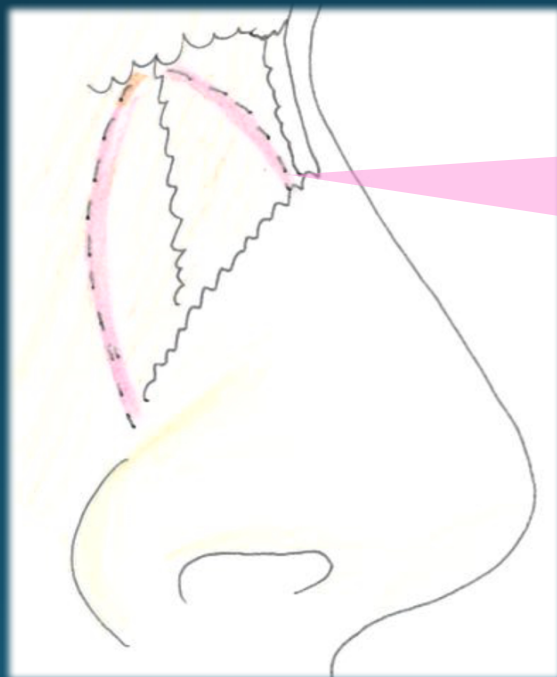
治療内容：鼻骨骨きり、軟骨形成、軟骨移植など

耳鼻科による**機能**の改善

症状：鼻づまり、通りが悪い

評価：診察、内視鏡検査、CT検査、通気検査（抵抗試験）、嗅覚検査

治療内容：鼻中隔軟骨切除、鼻甲介手術

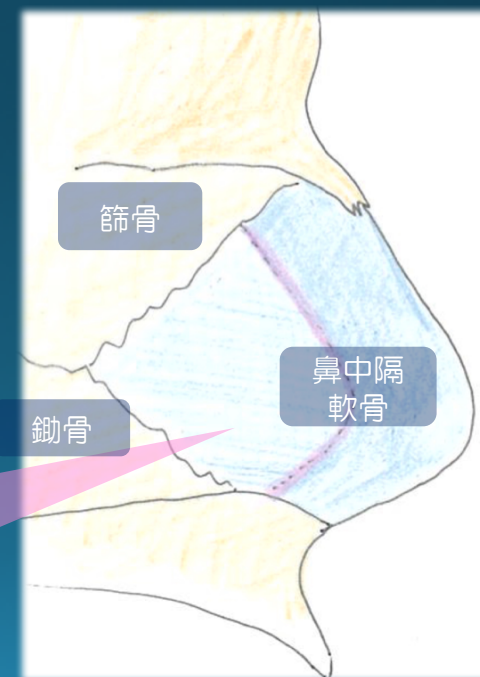


鼻骨骨きり

鼻骨骨折のあとなど、曲がってしまった骨はもう一度折って（切って）矯正する必要があります。手術のあとは2週間ギプスをあてます。

鼻中隔軟骨切除

鼻の支えとなる前方のL字ののこし、弯曲のある鼻中隔軟骨を切除します。この軟骨を鼻の形を整えるために利用することもあります（軟骨形成）。



入院期間について

全身麻酔を要し、入院はおおよそ1週間です。月曜日あるいは火曜日に入院いただき、週末あるいは次の月曜日に帰宅される方がほとんどです。

術後の生活について

退院後から日常の動作（軽作業、事務仕事、家事）は可能ですが、退院してから1週間は鼻のギプスをあてていただきます。手術から2週間目の外来で鼻のギプスをはずします。その後は1、3、6ヶ月後の通院となります。

きずあとについて

変形の程度によって、鼻の穴の中の切開のみで治療する場合と、鼻柱にも切開をおく場合とあります。また、鼻骨骨きりをする場合には頬に3mm程度の切開をおきます。傷跡を”残さない”ことは不可能ですが、半年経過するとほとんどの場合で”目立たない”程度になります。



詳しくは外来受診の上、ご相談ください。

おわりに

斜鼻の他にも、異物による変形や、ウェゲナー肉芽腫症などの自己免疫疾患による鞍鼻変形、腫瘍切除による変形にも対応します。また、外鼻変形のご相談は、なるべく第2・4金曜日に受診ください（2科の同日受診が可能となるため）。

文責・問い合わせ先

東京大学医学部附属病院 形成外科・美容外科

富岡容子

外来診療日 （月曜日）・偶数金曜日